

GSI キャラバン 2020 年度研究計画
「小国」の経験から普遍を問いなおす

代表:伊達聖伸(総合文化研究科)

本年度はプロジェクトの1年目に当たり、本来ならば複数の海外の大学において「GSI 海外学術キャラバン」を行うことに最大のエネルギーを注ぐ予定であったが、世界的パンデミックとなった新型コロナウイルスの影響で予定の変更を余儀なくされている。

そのため、本年度の前半は、駒場の主要メンバーのあいだで問題意識の共有をはかりつつ、より焦点を絞った共通の枠組みを練り上げるための準備期間と位置付けたい。とりわけ、プロジェクトのメンバーがそれぞれ受け持つ研究地域や内容は、ともすると拡散的に映る面もあるかもしれないため、一貫性と一定の統一性、多様性の内的な関係について考察と議論を深める機会としたい。具体的には、夏休みまでに研究会を少なくとも2回開催し、研究発表を通して論点の精緻化をはかることを目的とする。第1回は6月2日(火)にZOOMを利用して開催する予定である。

本年度の後半は、新型コロナウイルスの流行が東アジアでは一定の収束に向かうのではないかと期待しつつ、12月に香港中文大學でのキャラバン実施を予定している。渡航ができない場合にも、ZOOMを使っての会議を行う予定である。また、欧米地域との行き来も可能になるようであれば、春休み期間中にキャラバンか、または海外からの研究者を招聘してのシンポジウムの開催のどちらかを実施できるように調整を進めたい。